

はじめに

本校には支援学級が4学級あり、それぞれの障がいの特性に応じて支援している。本人の進路を考え、その目標に少しでも近づけるよう支援している。また、先生方に課題や困難をかかえている子どもたちの認識をより一層深めてもらい、表面にあらわれにくい内面のしんどさを理解してほしいと願っている。

このような思いをもちながら、抽出授業（英語）を担当した。自分の担当教科以外の内容を教えることは難しかったが、最終的に生徒は英語にかなり興味をもつようになってくれた。その抽出授業（英語）の内容を簡単に述べたい。

英語の支援方法

本校では1年生の英語の授業は支援学級ではなく、できるだけ通常の学級と考えている。アルファベットや単語など比較的取り組みやすい内容であることや歌、ゲームがあり大勢の中で学ぶことが楽しいと感じられることが多いのがその理由である。2、3年生の英語の支援はその生徒の状況により支援方法をかえている。

1年 通常の学級で授業（支援担当者が授業に入り込み指導）

支援内容

- ・板書を別紙に支援担当者が写す。それを本人に渡しノートに書き写すように声をかける。
- ・英語にカタカナをふり少しでも音読しやすくする。
- ・ゲーム時はルールが難しいので支援担当者と一緒にする。 など

◆生徒の様子

1学期当初は楽しそうにしていた。授業が進み、英単語が増え、英文が長くなるにつれて苦手意識がでてきた。

2年、3年 支援学級で抽出授業

支援内容

○英語の歌（授業の最初に必ずきく。）

<指導例 月名>

日本語と英語の月名カードを作る

1月 2月 3月 4月 …

January February March April …

（12か月分は多いので、まずは4か月分から指導）

- ・曲をきく。（指導者が単語を指さし⇒生徒とともに指さし⇒生徒だけが指さし）
- ・歌う。（生徒とともに歌う⇒生徒だけで歌う）
- ・何枚かのカードを裏向け、表のカードだけ歌う。（※1）
- ・1月半をめどにして曲を変える。

- ◆生徒の様子 リズムに乗り楽しそうに声をだしていた。最初は発音しにくい単語でも繰り返し聞くと発音できるようになった。(※1)のようにするとゲームのように楽しく取り組んでいた。

○アルファベット

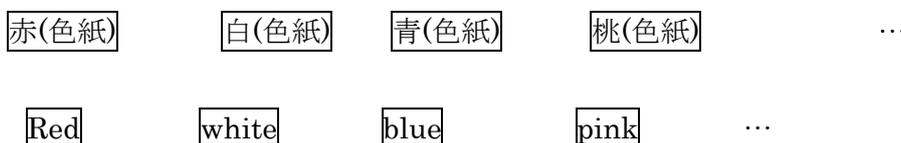
アルファベットのカード(大文字・小文字)を順番に並べる。

- ◆生徒の様子 アルファベット並べるはできると本人は感じていたようで意欲的だった。

○英単語

<指導例 色名>

英単語と意味(日本語をできるだけつかわない)のカードを用意する。



※1度に指導する単語の数は最初3個。様子を見ながら増やしていく。

- ①色紙を指さして発音練習。 ⇒ 色紙を生徒に渡し並べさせる。
- ②英単語を指さして発音練習。 ⇒ 英単語を生徒に渡し並べさせる。
- ③色紙・英単語を指さして発音練習。 ⇒ 英単語の順番を変え、色紙を生徒に渡し並べさせる。
- ④色紙・英単語を指さして発音練習。 ⇒ 色紙の順番を変え、英単語を生徒に渡し並べさせる。

- ◆生徒の様子 同じ英単語を何度も練習することで、読める単語・意味が分かる単語が増えた。①～④を初級、中級、上級、最上級といいかえることで意欲がさらに出てきた。このような学習を繰り返す中で、いろいろな英語の読み方を生徒が質問するようになった。

○英語のぬり絵

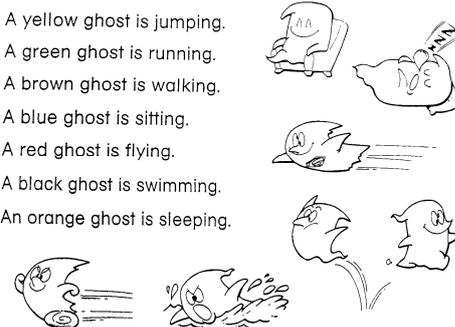
英単語の学習が少し進んだころから行った。

<指導例>

「つぎの英語の通り色をぬりましょう。」

- ① blue dog
- ② green cat (犬・猫の絵)

おばけに英語で指示されたように色をぬりましょう。

- ① A yellow ghost is jumping.
 - ② A green ghost is running.
 - ③ A brown ghost is walking.
 - ④ A blue ghost is sitting.
 - ⑤ A red ghost is flying.
 - ⑥ A black ghost is swimming.
 - ⑦ An orange ghost is sleeping.
- 

- ◆生徒の様子 生徒が自分で英語を読み、その英語の指示通りのことができた。そのことが、生徒の自信につながった。取り組みを行った当初の生徒の表情がとてもよく、これをきっかけに英語に対する取り組みが積極的になった。



○英単語をかく。

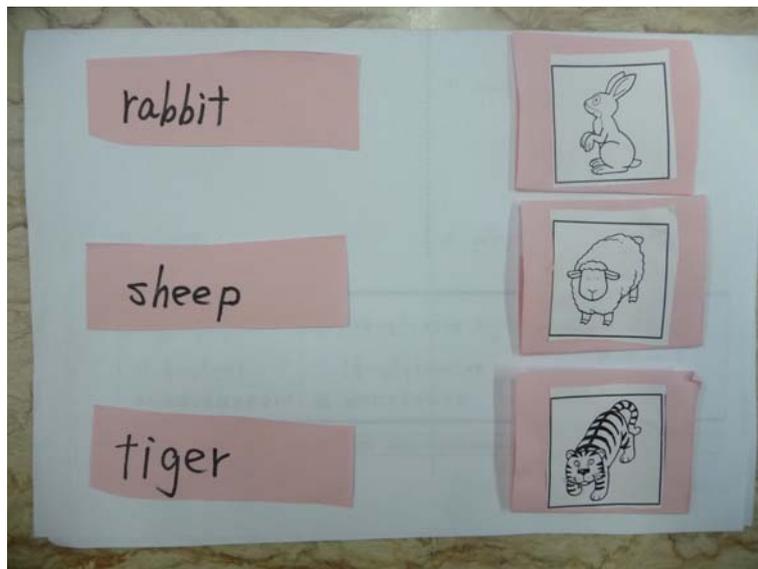
大きめの4線を用意。

単語と意味はあらかじめ書いておく。

1つの単語につき3回ほど練習する。

はじめての単語は授業中に練習する。

2回目以降は宿題にする。 ⇒ ちゃんと書けてないときは授業中にやり直しをさせる。



- ◆生徒の様子 大きい4線のため早くプリントが終わるが、早く終わるともっとプリントがしたくなるようだった。最初は1日1枚が宿題だったが、本人の希望で1日3枚の宿題をするようになった。生徒が1人でできる内容（単語練習・授業中に学習したプリントと同じもの）を宿題にしたことで、家庭でもすすんで取り組んだ。授業中や宿題で使用したプリントはすべてファイルにとじた。学期に1回そのプリントをリボンでくくり持ち帰った。たくさんたまるプリントは本人の自信にもなった。

○英単語を覚える。

定期テスト2週間前から生徒と相談して覚える単語を20～30決める。

⇒毎日宿題にする。

⇒授業中に単語テストをする。

- ◆生徒の様子 授業中の単語テストで、前回よりもたくさん単語が書けたことが励みになりまた頑張る様子が良かった。

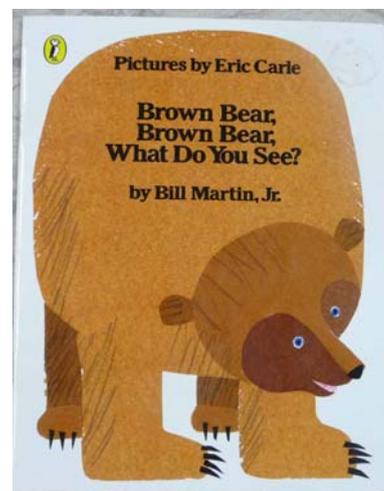
○絵本の音読 (2冊とも英語のCD付絵本あり。「Eric Carle 作」)

① **Brown Bear, Brown Bear, What Do You See?**

(くまさんくまさんにみてるの)

色や動物の名前など知っている単語が多い。

※チャンツのリズムの音読がCDにあるので
取り組みやすい。



② **From Head to Toe** (あたまのてっぺんからつまさきまで)

※音読に合わせてふりつけができようになった。。

CDをききながら絵本のページをめくる。

日本語の絵本を見くらべながら意味を確認する。

一緒に読む。⇒ 交代で読む。⇒ 一人で読む。⇒ いろんな先生の前で読む。

- ◆生徒の様子 本が1冊、英語で読めたことがとてもうれしかったようである。最初は支援学級から出て音読することを嫌がっていたが、何度も繰り返し練習するうちに職員室にいき、いろんな先生に音読を聞いてもらうようになった。音読を聞いてもらった先生にほめてもらうことが、次の音読につながった。

○教科書の本文をうつす。

定期テスト前に授業で練習。

(単語と単語の間をあけてかく。丁寧に書く。)

定期テストに出題。

- ◆生徒の様子 テストで点数を取りたい気持ちが、丁寧な字を書くことにつながった。

抽出授業(英語)を通して

英語に興味が出でてきたので、少し指導しただけでパソコンのローマ字入力ができるようになり、看板などのローマ字を楽しんで読むようになった。

生徒が興味をもった教材は小学生向けの英会話教材が多かった。

抽出授業では15分の3セットをこころがけ、生徒があまり興味を示さないときは、はやめに次の教材をするようにした。

★その他の事例（参考）

1, 2, 3年 通常の学級で授業（支援担当者が授業に入り込み指導）

支援内容

- ・音読で困っていたら、音読の場所を指でなぞる。
- ・板書で困っていたら、ノートのどこに書くか伝える。
- ・プリント学習のときは、生徒のそばで一緒にする。
- ・予習のページを伝える。

◆生徒の様子 1年の最初はアルファベットや英単語を書くのが難しかったが、慣れてくる
ときちゃんと書けるようになった。本人が英語に困り感をもちはじめた時に「音
読とノート作りを頑張ろう」と声をかけたことで、3年間、教科書の音読がで
き、ノートもしっかりと書けた。

通常学級での授業（英語）を通して

3年間、通常の学級で授業を受けたことが生徒の自信になった。

書ける単語は少なく、文法の理解は難しいが、授業には真剣に取り組んでいた。

最後に

個別に計画を立て支援していくことで学習意欲向上が実感できた。一方で中学校卒業
後の進路を考えるともう少し工夫できたこともあったのではと思う。今後、他校の実践
例に学びながらよりよい支援方法を考えていきたい。